

農学集報の完全版下投稿用 和文原稿作成例

農大太郎*・農大花子**・農大三郎**†

(平成 27 年 1 月 1 日受付/平成 27 年 月 日受理)

要約：このファイルは農学集報の完全版下投稿（和文）を作成するために必要な、レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。と同時に、版下原稿そのものの体裁（A4）をとっているため、このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。

この要約を含め、タイトル分部の幅は本文よりも左右 1 cm ずつ狭くします。要約のフォントは明朝体 9pt を用いて下さい。要約の最後に 1 行空けて、キーワードを 5 語以内、明朝・Times new Roman 9pt のフォントで書いて下さい。

キーワード：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

タイトルページ

タイトルのページは 2 つの部分で構成されています。

- (a) タイトル部分（題目、著者、所属、要約・Summary、キーワード）：横 1 段組
- (b) 本文部分：横 2 段組

このほか、ヘッダとフッタ（ページ番号）が付きます。なおソフトウェアによっては、タイトル部分とその下の本文部分が別のファイルに分かれていることがあります。

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ 1 cm ずつ大きくとって下さい。すなわち、A4 用紙の幅に対して左右それぞれ 3 cm ずつのマージンをとります。

タイトルは A4 用紙の上辺に約 3 cm のマージンを取り、センタリングします。以下、次の順にタイトル分部の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体 20pt フォント
(約 1.5 cm のスペース)

著者名：明朝体 12pt フォント
(約 5 mm のスペース)

著者所属：明朝体 8pt フォント
(約 1 cm のスペース)

著者名と所属はアスタリスクで対応させて下さい。
要約：和文は明朝体 9pt フォントで 800 字以内とし、Summary は Times new Roman 9pt フォントで 500 ワード以内とする。
(1 行のスペース)

キーワード：和文または英文で 5 語以内とし明朝体 9pt、または Times 9pt で記入します。
Key word の文字はボールドイタリック体にします。

(2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文とキーワードの間に約 1 cm のスペースを空けて下さい。

本文は 2 段組で、左右のマージンは 2 cm ずつ、段と段の間のスペースは約 6 mm とします。下辺のマージンは 24 mm です。

* 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科

** 東京農業大学農学部農学科

† Corresponding author (E-mail:xxxx@nodai.ac.jp)

数式および数学記号

Speciman No.	H ights (cm)	W idth (cm)
1	145.5	25.0
2	175.5	40.0
3	190.0	65.0

本文には明朝体 9pt を用いて下さい。

(3) ヘッダとフッタ

タイトルページにはヘッダとフッタ機能を使って論文集の号巻数を入れます。また、全てのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページを入れます。

一般ページ

第 2 ページ以降の通常のページは上辺のマージンを 19 mm とし、それ以外はタイトルのページの本文部分と同様のレイアウトとフォントで本文を作成します。

(1) 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係のない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

見出し（見出しが 1 行以上に長くなるときはこの例のようにインデントして折り返す）

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは 3 段階までとします。第 1 レベルの見出し（章）はゴシック体とし、2. などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように、上を 1 行以上、下を 1 行程度空けて下さい。

(2) 第 2 レベルの見出し

第 2 レベルの見出し（節）もゴシック体で、(4) などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに 1 行程度のスペースを空けて下さい。

a) 第 3 レベルの見出し

第 3 レベルの見出し（項）は、括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。第 3 レベルより下位の見出しは用いないで下さい。

数式や数学記号は次の式 (1a)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z dz$$

のように本文と独立している場合でも、 $C_D, \alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません。

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

表 1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

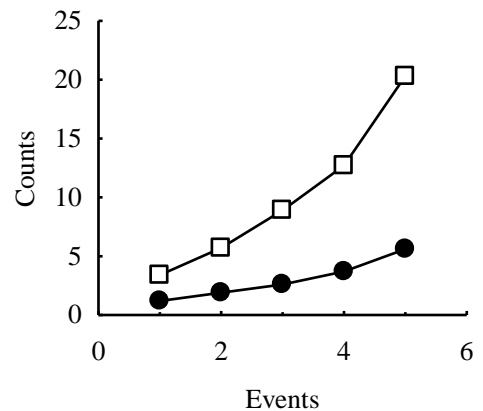


図 2 図のキャプションは図の下に置く

図表

(1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、「2 段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表 1 や図 2 のように「1 段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を 1 段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には 1 行程度の空白を空けて区別を明確にします。

(2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意して下さい。特にキャプションの大きさ (8pt) より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは表 1 のようにインデントして折り返します。英文キャプションの場合は、見出しを Table 1 や Fig 2 として下さい。

参考文献の引用とリスト

参考文献は、本文の参考順に番号をふり、参考文献番号は必要とする箇所の肩にアラビア数字を片カッコに入れ、文献と照合できるようにして下さい。英文の場合の著者名は姓、名のイニシャル (ピリオドなし) とし、著者が複数の場合はコンマで区切って下さい。

謝辞: 「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置くこと。

参考文献

【雑誌】

著者 (発行年数) 題目. (ピリオドで終わる) 雑誌名 (ピリオド, コンマはなし) ただし略誌名をあらわすピリオドは付与) 巻数 (太字): 引用ページ〇-〇. 欧文誌名はイタリックとして下さい。

例

- 1) MEHLER A H, KNOX W E (1950) The conversion of trypanhan to kynurenine in liver. II .The enzymatic hydrolysis of formylkynurenine. *J.Biol.Chem.* **187**: 431-438.
- 2) 大原誠資 (2009) 木質バイオマス利活用の今後の展望. *山林* **1501**: 138-145.
- 3) 岩崎直人, 小野拓生, 笹目恵一 (2006) ハイブッシュブルーベリーの成熟に及ぼす自家および他家受粉ならびに種子数の影響. *園学研.* **5**: 153-156.

【単行書】

著者 (発行年数) “引用章題” と書名, または書名のみ. (ピリオドで終わる) 出版社, (コンマで区切る) 出版地. (ピリオドで終わる) ただし一部引用の場合はコンマで区切る) 一部引用の場合は引用ページ pp. 〇-〇. (本全体の場合はページ数はつけなくても良い).

例

- 1) ODUM E (1971) *Fundamentals of ecology*. 3rd ed. W.B.Saunders, Philadelphia.
- 2) 環境省 (2000) 環境白書. 総説/環境省編. 大蔵省印刷局, 東京.

例 (単行書の一部引用)

- 1) EWING J (1940) *The mathematical theory of communication*. University of Illinois Press, Urbana, pp. 350-361.
- 2) 鵜飼保雄 (2000) “遺伝率の相対性” 量的形質の遺伝解析. 医学出版, 東京, pp. 109-110.

【Web ページ】

Web ページについては、著者名 (またはサイトの運営主体), Web ページのタイトル, 〈URL〉 (最終アクセス年月日) として下さい。

例

- 1) 科学技術振興機構, 科学技術情報流通技術基準—参考文献の書き方, 〈<http://www.jst.go.jp/SIST/handbook/sist02/sist02.htm>〉 (最終アクセス 2004 年 4 月 12 日)

Print Sample for Japanese Manuscript for Journals of Agriculture Science

By

Taro NODAI*, Hanako NODAI** and Saburo NODAI***†

(Received January 1,1999/Accepted)

Summary: The present file has been made as a print sample of the camera-ready manuscripts for Journal of Agricultural Science. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 1 cm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-Roman 9pt. The length may be within 7 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12pt.

Key words : Times, italic, 9pt, several words, one blank line below ABSTRACT, indent if key words exceed one line

* Department of Bioproduction and Engineering, Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University of Agriculture

** Department of Agriculture, Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture

† Corresponding author (E-mail:xxxx@nodai.ac.jp)